

きょうとグリーンファンド

【設立】2000年3月
 【所在地】中京区寺町二条下ル
 【会員数】40人
 【連絡先】075・241・0550

「テレビを見ないときは必ず主電源を切る」「部屋全体でなく、必要な場所だけ明るくする照明に」
 ちよっとした工夫で浮かせた電気代をクリーンな太陽光発電設備の普及に生かしませんか。今春発足した「きょうとグリーンファンド」(龍池妃都美代表)はこんな運動に取り組んでいる。

一月月の電気代が平均約一万円とする。その5%分を節電できれば五百円が浮く。その十二万円間分にあたる六千円を一口に、小規模な発電設備を作るための募金と呼びかけてきた。市民の募金で小規模の風力発電設備を設ける活動を進める北海道の生協を参考にしている。

一九八六年四月に発生したチェルノブイリ原発事故は広島型原爆の五百倍の放射線物質による汚染を引き起こした。汚染は世界的に広がり、当時、乳幼児を抱え、子育てに追われていた母親らが、わが子が食べる食品の汚染を考えるグループをつくった。一方、福井県・若狭地方での原発の集中立地や、事故が起こったときに琵琶湖が汚染される

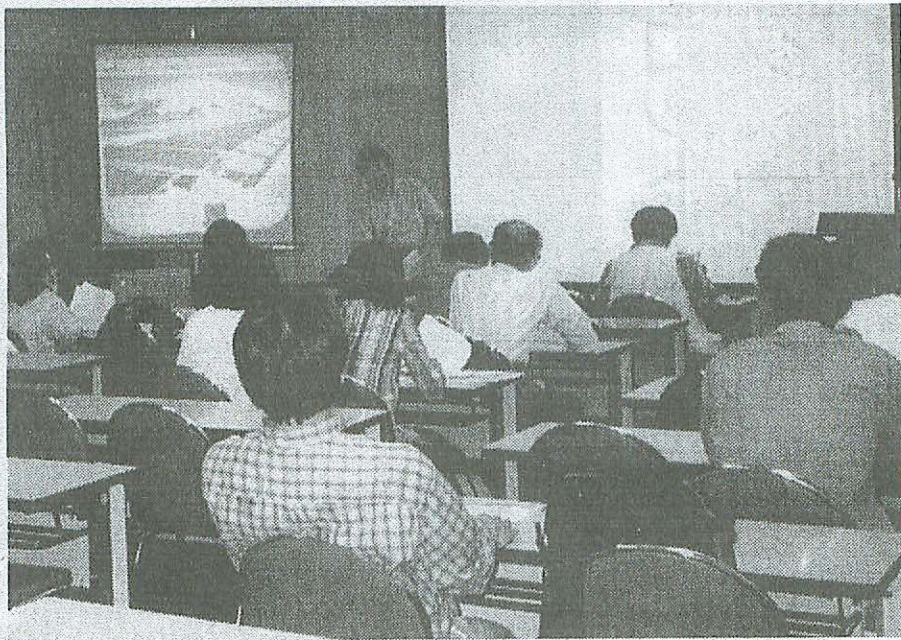
京都NPO案内

>11<

危険性を問題視する活動に
 取り組んできた女性たちも
 いた。

そんな反原発運動にかか
 わる人々や、いまの生活を
 見直していかうと考えるメ

発電設備普及呼びかけ



自然エネルギーの利用法について学んだフォーラムⅡ今年6月、上京区で写真提供・きょうとグリーンファンド

安全な電力 少しの節約から

ンバーが「身近な形で代替エネルギーの普及活動ができないか」と立ち上がったのが、ファンド設立のきっかけだった。

三月に設立準備会を発足。環境問題に取り組み市民団体のメンバーや大学教授らを招き、省エネルギーや太陽光、風力などの自然エネルギーについて考えるフォーラムを相次いで開いてきた。

募金活動には賛同者が着々と増え、すでに五十口弱、約三十万円が寄せられている。

事務局の山本時子さん(左)は「主婦感覚で言うと、六千円をただ取られるのはつらい。しかし、むだな電力を節約し、安全なエネルギー利用に役立てる。足元から社会のあり方を見直そうという発想なんです」と話す。

来年中には活動のPRも兼ね、最初の太陽光発電設備を児童館や保育園に設置したいという。